



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル・パレスチナ：ケリー国務長官の訪問

11月5日、中東歴訪中の米国のケリー国務長官は、エジプト（3日）、サウジ（4日）を訪問した後、イスラエルを訪問した。ケリー国務長官は、7月末にイスラエルとパレスチナが中東和平交渉再開に合意するまでは頻繁にイスラエル・パレスチナを訪問していたが、交渉再開後のイスラエル・パレスチナ訪問は今回が初めてである。個別の会談では、ケリー国務長官は、ネタニヤフ首相とは、エルサレム（9月15日）、ワシントン（9月30日）、ローマ（10月17日）で、アッバース大統領とはロンドン（9月8日）で会談している。

イスラエルに到着したケリー国務長官は、記者団に中東和平交渉が困難に直面していることについて幻想は持たないと発言しており、交渉に問題が生じたことを示唆した。イスラエル側もパレスチナ側も、協議の具体的な内容はまだメディアにリークしていない。11月5日の交渉（15回目）は、入植地問題などのため最後は口論になったと報道されている。

ケリー国務長官は、ネタニヤフ首相と3回（11月6日に2回、8日）、アッバース大統領と2回（6日ベツレヘム、7日アンマン）で会談した。同長官は、6日にはペレス大統領、7日にはヨルダンのアブドゥラー2世国王と会談している。

ケリー国務長官は、問題があることを示唆しているが、具体的には言及していない。同長官の発言から推定すれば入植地建設が問題になっていた可能性が高い。7日、イスラエルとパレスチナのテレビと共同会見したケリー国務長官は、パレスチナ人囚人の釈放は、パレスチナが国際機関への加盟申請をしないこととリンクしているが、イスラエルの入植地建設継続とは関係ないとした。ケリー国務長官は、入植地建設は違法であると米国の従来立場を表明した。同長官は、会見の中で、交渉が進まない場合、第三次インティファダが起きるかもしれないと発言している。第三次インティファダについての発言には、イスラエル右派が反発した。

今回の歴訪の最後に、ケリー国務長官は、8日朝、ヨルダンからイスラエルを訪問し、ネタニヤフ首相と3度目の会談を行った。同会談後、ネタニヤフ首相は、イスラエルの安全保障と国益に係る問題では、いかなる妥協もしないと述べている。

評価

ケリー国務長官が、何を協議するために今回の仲介外交を行ったかは、明らかにされていないが、米国がイスラエル側に圧力をかけた、あるいはイスラエル側に政策の変更を求めた可能性がある。しかし、ケリー国務長官とネタニヤフ首相との8日の会談は、イスラエル側の態度に変化がなかったことを示唆している。

イスラエルは、欧米諸国とイランの核協議の進展に懐疑的であり、厳しいイラン政策を取るよう求めて、米国との軋轢を強めている。11月11日には、パレスチナ問題で強硬派の極右の政治家リバーマン前外相が、無罪判決の後、再び外相に就任した。中東和平問題やイラン核問題で、ネタニヤフ政権とオバマ政権の対立が深まる可能性が高い。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799